



テーマ、 眼差し、 写真の力

三人の女性写真家の物語

大石芳野
田中弘子
安田菜津紀

佐々木広人
司会
(アサヒカメラ) 編集長

パネリスト

© 大石芳野

11.10 土 10:10 開場

有楽町朝日ホール (有楽町マリオン11階)

【主催】公益社団法人 日本写真家協会 【共催】株式会社 朝日新聞出版 (アサヒカメラ) 【後援】文化庁

【協賛】エプソン販売(株) / オリンパス(株) / キヤノンマーケティングジャパン(株) / (株)シグマ / (株)タムロン / (株)ニコンイメージングジャパン / 富士フィルムイメージングシステムズ(株)

9/15より
先着順 定員600名

詳しくはホームページをご覧ください

www.jps.gr.jp

テーマ、眼差し、

写真の力 三人の女性写真家の物語

一枚の写真はもちろん、何枚もの写真が、ひとつずつテーマに沿つてまとまつた時、写真の持つ大きな特長のひとつである記録性は、さらに大きな力となつてわたしたちに訴えかけてきます。それはプロでもアマチュアでも変わることはあります。それはフォーラムでは、三人の女性写真家のそれぞれの物語と、被写体に注がれる眼差しを通して、テーマとテーマ選びの大切さ、そしてそれらが生み出す写真の力について語っていただきます。

© 安田菜津紀



入場料 無料

定員 600名(先着順、要申込)

申込期間 9月15日～10月31日

申込み方法

往復はがきに、住所、氏名、ふりがな、電話番号を明記の上、JPS事務局まで。返信されたはがきが聽講券となります。メールの場合は、JPSホームページの申込みフォームよりお申込みください。

タイムテーブル(予定)

10:10 開場

10:40～14:55 講演 大石芳野、田中弘子、安田菜津紀
(12:30～13:15休憩)

15:05～16:00 パネルディスカッション
大石芳野 + 田中弘子 + 安田菜津紀
司会進行 佐々木広人



© 田中弘子



安田菜津紀(やすだ・なつき)

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。「H-1」と共に生まれる「ウガンダのエイズ孤児たち」で第8回名取洋之助写真賞受賞。写真絵本に『それでも、海へ』『陸前高田に生きる』(ボブ社)著書に『君とまた、あの場所へ』『シリア難民の明日』(新潮社)。『写真で伝える仕事—世界の子どもたちと向き合つてー』(日本写真企画)。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

田中弘子(たなか・ひろこ)

1942年(昭和17)東京生まれ。'92年(平成4)から4年間関東アーティス協会ジユニアーティス誌広報写真を担当して以後写真活動を続け、日本写真家協会展、全日本写真展「現代を撮る」などで入賞多数。'98年(平成10)から群馬県桐生市の絹織物の取材を始め、養蚕業と広げて、2005年(平成17)「繭の輝き」としてまとめ、写真展と雑誌に発表。同作品で2006年第15回林忠彦賞受賞。現在は、東京の川、開発以前からの西新宿、多摩ニュータウンなどをテーマに都市の姿を追い続けている。日本写真協会会員。

佐々木広人(ささき・ひろと)

『アサヒカメラ』編集長。1971年秋田県生まれ。リクルートに入社し、海外旅行情報誌『エイビーロード』編集部に在籍。'99年に朝日新聞社に入社し、主に週刊朝日編集部に在籍。同誌副編集長、WEB担当、宣伝担当などを経、2013年9月から『アサヒカメラ』副編集長に。2014年4月から現職。

ホールで開催 講演者・パネリストによる作品講評会 WEB申込み(先着順) ※詳しくはJPSホームページをご覧ください。